

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100372		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム瀬田 (1階)		
所在地	〒520-2141 滋賀県大津市大江3丁目6番5号		
自己評価作成日	平成27年9月 10 日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年10月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

しんらしいあい、じぶんらしく、みんないきいき楽しい我が家(しじみ)をモットーに、平成26年8月開所から地域で職員と利用者が共に暮らす我が家を目指し、毎月の行事や日々の散歩、地域の交流会に参加し地域の方と話す機会を出来るだけ持てるようにしています。  
日々の暮らしでは、ほっこり出来る空間を利用者様と共に考え、カフェスペースのような空間を作ったり、大きなテラスにいつでも出られるように声掛けをし合って職員が連携しいつでも出られる、自由な雰囲気づくりをしています。  
生活に関しても、野菜以外の買い物は職員と利用者様と共にでかけ食べたいものや、したい事、昔話などをお話できる時間をとり、出来るだけ個人の意思を尊重できるゆったりとした生活を送っていただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは自立度の高い活動的な利用者が多く、職員は利用者のできる事を引き出し、俳句や水彩画などの趣味の継続や日々の食事作りなどに力を発揮してもらう等、利用者が楽しみや役割を持って暮らせるよう支援しています。地域の方の受け入れもよく積極的に地域行事に出かけたり、地域の方へ認知症の理解に向けた講座の開催や法人と一体となり開催した洛和フェスティバルは模擬店なども行い、地域の方の参加を得て共に楽しめる機会を作り理解や交流が広がるよう取り組んでいます。開設から1年が経過し利用者の状況や職員体制も落ち着き、職員は毎朝のミーティングで情報や一日の動きを確認し「信頼し合い・自分らしく・皆イキイキ楽しい我が家」と掲げた理念の基、その人らしさを尊重し、外出の機会を多く作り、楽しみや変化のある暮らしが提供できるよう取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	可能な限り朝の引継ぎで理念の唱和を行い、その日の中でどの理念を実行するかを考えて、行見に取り組んでいる。	法人理念を基に開設時の全職員で話し合い独自の理念を作成し、新たに入職する職員には共有できるような理念に込められた意義を伝えています。理念は玄関やリビングの目につく場所に掲示し、日々の業務の中やカンファレンス時にはその人らしさを尊重した支援について考える中で理念を意識し実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	体調や気候に応じて、散歩などに出掛けた際、挨拶するなどし会話ができる関係が出来ている。 また、自治会のつどいや運営推進会議などで情報交換を行っている。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議などで地域の情報を得ています。神社の祭りや盆踊りに参加し出店で買い物などを楽しんだり、自治会館で行われるふれ合いサロンなどに参加し交流しています。またフラダンスや舞踊等のボランティアの来訪の他、法人と一体となり地域に向けて開かれるフェスティバルは模擬店なども行い、地域の方の参加を得て共に楽しんでもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	表立って行っていないが、散歩や不穏時の対応を近隣の片に見ていただき、参加して頂く機会があったため、お話する機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の片からの情報や、近隣での催しなどへ参加することで、実際職員の対応を見てもらっている。	会議は複数の家族や町内会長、民生委員、市の職員でもある地域包括支援センター職員などの参加を得て隔月に開催しています。ホームの状況や行事、研修報告などを行い意見交換をしています。参加者からは多くの意見が出されており、認知症サポーター講座の実施や菜園作り、子供たちとの交流に向けて話し合うなど意見を反映させた取り組みに繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進議事録は、管理者が手渡しで行っていたが、今年度より「1年間まとめて提出が良い」と行政から言われたため、関わっていない。地域包括支援センターとは、情報の共有や相談し協力関係を築いている。行政主催の研修も勤務調整し、参加している。	運営推進会議には市の職員でもある地域包括支援センター職員の参加を得ており、ホームの実情を把握してもらっています。市主催の研修会への参加や認知症サポーター講座開催に向けての相談など、協力を得ながら取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人単位での研修を受けている。それを各事業所に持ち帰りカンファレンスや口頭で話し合う時間を持っている。	身体拘束に関する研修を受講した職員がホームで伝達し周知しています。言葉による行動の制止が見られた時はその都度注意したり、職員間でも互いに注意するようにしています。玄関やフロア出入口、ベランダは利用者が自由に出入りすることができ、出かけた方には付き添って出かけており、拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人単位での研修を受けている。それを各事業所に持ち帰りカンファレンスや口頭で話し合う時間を持っている。		

洛和グループホーム瀬田(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人単位での研修を受けている。それを各事業所に持ち帰りカンファレンスや口頭で話し合う時間を持っている。 また成年後見制度を使用されている方がいるため、成年後見人とは何かを学ぶ機会にもなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・改定時に説明を行い、同意を得ている。質問や疑問点も伺い説明している。不明確な場合は、上長に確認してから説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置すると共に、定期的なアンケートを行っている。 また、家族様が来られた際に最近の状態を報告する際など意見の聴取を行っている。	利用者は関わりの中で多くの要望を出されており、趣味の継続など暮らしの中で反映しています。家族の意見は直接話ができる面会時や運営推進会議などで聞いたり、法人によるアンケート調査も行われています。意見を受けて利用者が家事に関わる機会を増やしたり、プランターで花を育てるなど意見を反映した取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見を集めている。出来るだけ、職員が偏らないように注意し開催している。	職員は日々の業務の中や毎月のミーティングで多くの意見や提案を出しています。会議ではできる限り全職員から意見を聞くようにし、テーマが決まっている時は参加できない職員にも事前に意見を聞いています。職員の意見を取り入れ、業務を見直し散歩の機会を増やしたり、利用者が行きやすい場所への外出行事などに繋がっています。また管理者が随時話を聞いたり、週に2度支店の担当者がホームを訪れ意見や相談を受けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を設け、目標等について話している。人員が不足している中、なかなか「やりがい」など働く環境に向上心に向けるのが難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるよう勤務体制を整えている。また、資格取得に向け法人内の研修に希望者は参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流の機会を持ち、他事業所との関わり・意見交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より情報を頂いたり、訪問した相談からの情報を受けて基礎を作り、本人様が困っている様子を見かけたら出来るだけすばやく対応、変化に職員全員が気付けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や、訪問時できるだけ本人様の情報をいただけるように声掛けをし、雑談も取り入れることで何でも話せる職員が居る、という認識を持っていただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様より情報を・訪問した相談からの情報・医療からの情報を基礎にし、日々変化がみられるようなら記録に記入し、そのとき一番必要なことは何かをスタッフが気付けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしてもらい、出来ないことなどの場所を助けるればできるようになるのかを念頭に持ち、お客様という立場ではなく共に暮らす仲間としての声掛けや対応をするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族様・医療がチームとなり、利用者様一人一人を支えていけるように、家族様の面会などで話す時間を持ち相談をしたりすることで、皆で差さえあって生きていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などで来ていただく際はプライバシーの観点からもキーパーソンに連絡確認を取っているが、概ね自由に面会していただいている。また馴染みの病院などには継続して受診している。	友人や親せきなどの来訪があり、居室やリビングなど希望を聞きながらゆっくり過ごせる場所へ案内し、時には会話が弾むよう話を取り持ったり、帰られる際にはまた来てもらえるように声掛けをしています。家族の協力を得て墓参りや親せきが集まる法事などに行かれる際には出かけるまでの準備を支援しています。また会いたい人や行きたい場所などの要望が出された際には支援に繋がりたいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様だけにならない環境にならないようにし、関係が悪くなるようであれば職員がフォローに入ったり、気分転換にマンツーマンで散歩や話をする時間を持っている。		

洛和グループホーム瀬田(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に立ち寄ってもらえ、困ったときには相談が出来る事業所でありたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	振り返りシートの活用や、利用者様同士の会話の中で出る本音の部分に耳を傾けていきたい。	入居時の面談で暮らし方の希望を聞いたり、家族にも暮らしぶりや生活歴などを書いてもらい、趣味や楽しみなども継続できるよう情報収集に努めています。日々の関わりの中で聞いた利用者の意向は申し送りなどで職員間で共有しています。把握の困難な場合は家族に聞いたり、表情などの反応を見ながら思いを汲み取れるよう職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り家族様のと会話を大切にし、以前の様子や思いを聞かせてもらいたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆったりと接することで本当の姿を見つめ、状態を知るように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを踏まえてカンファレンスで職員間で話し合いプランを立てる。	アセスメントを行い、本人の希望や家族の意向を反映した介護計画を作成しています。入居当初は3ヶ月、6ヶ月その後は状態に変化がない場合は1年毎に見直しています。見直しに向けてはカンファレンスで話し合った内容を基に計画を評価し、希望記入用紙を用いて書いてもらった本人や家族の希望、医師や看護師の意見を参考に、カンファレンスを開き希望や課題について検討し見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って記録を行い、それ以外の気づきも記録に残し、プラン見直しに役立てる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り個人の思いを尊重し、一人一人にあった支援を提供できるようにしている。		

洛和グループホーム瀬田(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会の催しに参加したり、認知症であっても地域に受け入れられるような支援を今後も続けていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を希望者のみ受けている。状態の変化や処方変更には家族との連絡を密にしている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることを伝えています。継続している利用者は往診を受けたり、職員が付き添い受診している方は必要に応じて家族にも来てもらっています。協力医は24時間電話で相談することができ、利用者の体調変化などは訪問看護師や医師の指示をもらい対応しています。また週に1度の口腔ケアや月1度訪問歯科を受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受け、相談に乗ってもらったり適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と情報交換し、調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期の事例は無いが、法人としての指針はあり今後取り組みもある場合がある。	入居時にホームの終末期の対応について指針を基に説明しています。時期が来たら改めて家族や医師、訪問看護師などと話し合い、看取り支援の希望があれば家族の協力も得ながら支援したいと考えています。職員は看取りに関する法人研修を受講し伝達したり、他の事業所の看取りの取組などを学び方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、防災について訓練を行い、避難などについて職員は周知している。また、1年に2度の消防署との避難訓練の実施。備蓄として予備の食料やカセットコンロ・水などをそろえている。	年に2回昼夜を想定し2回とも消防署の協力の下避難訓練を行い、通報や初期消火、消火器の使い方などを実施し、アドバイスをしています。また2か月に1度自主訓練を行いアドバイスの再確認や勉強会を実施し災害に対する意識の向上を図っています。運営推進会議で訓練の案内や報告を行い自治会長や民生委員に災害時には協力が得られるよう依頼しています。水やドライフードなどの備蓄を準備しています。	

洛和グループホーム瀬田(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に言葉使いに気をつけてケアに取り組んでいる。 名前を出す場合はプライバシーの保護に努めている。	入職時研修や年に1度法人による接遇マナーに関する研修を受講し全職員に伝達しています。個々に合わせた声掛けや対応を行い、排泄介助の声掛けは周りに配慮したり、入室時には必ず本人に声をかけるなど基本的なことを守っています。家族や第三者が見ても違和感のないような対応に努め、馴れ合いなどが見られた際にはその都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を用意するときは職員と一緒に選んだり、食事の献立と一緒に決めたりと自己決定できるように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意でケアを提供できるよう、その人がどのように過ごしたいのかを探っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や化粧品など一緒に選んだり、買い物に行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日ある材料からメニューを相談して決め、仕上げまでテーブルの上で行って一連の過程を目の前で見てもらい、時には手伝って貰っている。	食事はできるだけ旬の食材を取り入れ調理方法などを利用者と相談しながら魚や肉が重ならないよう決めています。調理では利用者間でも自主的に声を掛け合って分担し、毎日台所に立つ方など力を発揮してもらっています。お節料理や節分の巻き寿司などの行事食や外食、家族との食事会を実施したり、おはぎやどら焼きなどのおやつ作りを楽しんでもらっています。職員も共に食卓に着き同じ食事を摂っています。また朝食は好みや習慣に合わせてパンとご飯を選んでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に適した食事量、食事形態、水分量を把握しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に口腔ケアの声掛けを、自分で出来る方は促し、出来ない方は出来ない所のみ介助している。		

洛和グループホーム瀬田(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時から落ち着かれるまで、身体の変化があったときなどは表にしてパターンを掴んでいる。 また、自力で排泄できないのはどこに障害があるのか・どこを支援したら良いかなどミニカンファレンスを行ったり医療への相談を行い対応している。	排泄の支援は朝や就寝前に声掛けを行えば失敗なく過ごせる方も多く、支援が必要な方は排泄チェック表を参考にパターンを把握したり、排泄のサインを見ながらトイレで排泄ができるよう支援しています。カンファレンスで失敗の原因や本人に合った排泄用品について検討し、職員間で同じ支援ができるよう共有しています。また家族の意向も考慮し相談しながら自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を取っていただく、乳製品をこまめにする、体操を行う、マッサージを行う、水分補給をこまめにとる等し、どうしても出ない場合は医療へ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居時は拒否されることも多かったが、着替えを選んでもらう、入りたいと話されたときに入らせていただくなどし、入所当時よりスムーズに入浴を楽しむ事が増えている。	入浴は週に2回以上を目途に午後から入ってもらい前日に入っていない方から声をかけ支援しています。希望があれば毎日や夜間の入浴にも対応しています。季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤なども用いて入浴が楽しめるよう支援しています。寒い時期は脱衣所を温め温度差を少なくしたり、入浴を拒む方は時間や職員を替えて声をかけ、無理な場合は翌日に変更するなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね安眠されているが、どうしても眠れない場合は日中の状態・精神状態などを考慮して体を動かしてみてもどうかなどミニカンファレンスを行い、医療と連携しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも利用者様が服薬している薬を知ることの出来るファイルを職員が使用するデスクに備え閲覧できるようにし、薬剤師や医療関係者にも聞きやすい環境が出来ている。薬ポケットを使用することで錠数などの把握が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中で好みのものや食べ物・行きたい場所などを聞き出し提案したり、提供している。 また、特定の役割を個人個人が持って生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に声掛けをし、車や歩いて出掛けている。出来るだけ偏りがないように勤めている。 また、散歩や行事などで外へ出掛ける支援も行っている。	外出には力を入れて取り組んでおり、季節ごとに初詣や花見、紅葉狩りなどに出かけたり、外食やショッピングモール、家族を誘って食事会などに出かけています。また日々散歩や買い物、地域で行われる行事にも積極的に出かけています。受診を兼ねて個別に喫茶店に行くこともあり、今後は更に本人の行きたい場所へ出かける個別の支援にも取り組む予定としています。	



洛和グループホーム瀬田(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所にて行っているが、買い物希望される方に関しては、自らレジにて支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じて対応させていただくように支援している。今後手紙・年賀状などの支援も希望に応じて行きたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は利用者様にとって快適な温度・湿度に保ち、出来るだけ季節を感じていただけるような飾りを取り入れている。	共用空間は季節に合わせて利用者と一緒に作ったコスモスなどの作品を飾ったり、できるだけ花を分け、季節が分かりやすいよう配慮をしています。テレビが見られる場所のソファ以外にも廊下にソファを置き静かに過ごせる場所を作ったり、自由に出入りできるベランダにも椅子やテーブルを置き、お茶を飲み日向ぼっこができるようにしています。窓を開けて換気を行い温度や湿度の管理など過ごしやすいよう配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一部にカフェコーナーのような場所を設置しリラックスできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具、家族の写真なども飾られて居心地の良い空間を作っている。	入居時には馴染みの家具や使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、テレビや使用していた机、座り慣れた座布団などを持参したり、冷蔵庫を持ち込む方もおり、過ごしやすいよう配置しています。また家族の写真や自身で作った折り紙の作品、得意な俳句や俳画を飾っている方もおり、その人らしい居室となっています。自立度の高い方も多く、利用者と一緒に掃除を行い清潔な空間で快適に過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置されている。廊下にもベンチを置き腰掛けられる用意もある。		